

## 「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和２年度採択）

## 中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-4	自動運転とシェアリングが融合した新しいモビリティサービスと社会・都市・生活の未来についての研究開発	熊本大学 教授 溝上 章志	B

## &lt;研究の概要&gt;

「自動運転」と「シェアリング」は Society5.0 を支える主要技術であり、両者が統合した自動運転シェアリング（AVS: Autonomous Vehicle Sharing）は究極のモビリティサービスを提供するであろう。本研究開発では、AVS サービスに対する市民の要望や社会的受容性、既存公共交通事業との関係、駐車場需要や都市構造・社会生活への影響など、AVS サービスが実装された後の総合的モビリティサービスのあり方と社会・都市・生活の変化・変容について、技術的・社会的側面から検討を行う。

## &lt;中間評価結果&gt;

研究の目的・目標に掲げられている項目についてシェアリングに関する研究は順調であるが、自動運転の導入による影響については十分とはいえない。

また、自動運転に特有の課題と、シェアリングの関係性が現時点では明確でないことから、指摘事項に留意しながら現行の通り推進することが妥当であると評価する。

## &lt;今後の研究計画・方法への指摘事項&gt;

- ・自動運転シェアリングサービスのシミュレーション分析を、実際に運用されている相乗りタクシー（荒尾市）のデータを用いて構築している。現実性を担保している点は評価できる一方で、「自動運転」の要素を考慮いただきたい（自動運転の検討に関しては、駐車場と専用車線のみ）。自動運転の条件（想定する自動運転レベル、サービス内容、シミュレーションでの仮定・設定、シミュレーションの妥当性の検証等）を明確にした上で、自動運転による影響（交通・社会的影響等）に関する整理を行っていただきたい。運転者の労働問題など、自動運転化によって大きく変わるはずの運営方法についても検討していただきたい。
- ・「社会・都市・生活の変化・変容」のうち、どの部分についての結論が得られそうなのか、焦点を絞ってほしい。
- ・自動運転やシェアリングに関心のある人たちから自由な活用アイデアを出していただき、それをシミュレーションモデルをつかって検討するようなWS等を開催すること等により、多くの人の関心が得られ、そこから社会変容へのヒントが得られるか可能性について検討いただきたい。
- ・シミュレーションが正しく利用者の需要を表しているか、検証方法についても検討いただきたい。
- ・ライドシェアは、同乗する人の属性（男女、年齢等）による選好の違いやコロナウイルスの影響（3密を避ける）についても検討いただきたい。
- ・特定の地域における自動運転ライドシェアシステム導入のシミュレーション分析という傾向にあり、より一般的な知見が得られるよう学術研究としての展開や、システムの一般化等を図ることを期待したい。
- ・FS 評価時の指摘事項であるシミュレーションモデルの他事例による検証や自動運転車の開発動向に関する調査などの計画を明確にしていきたい。

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第42回新道路技術会議において審議したものである。